

平成 29 年度 第 2 回 環境基本計画評価検討部会
会議録

日 時 平成 29 年 12 月 20 日（水） 午前 10 時～12 時

場 所 職員会館かもがわ 第一会議室

出席者 小幡部会長，板倉委員，大久保委員，窪田委員，小山委員

欠席者 綾野委員，中野委員

内容

1 開会

挨拶 環境政策局環境企画部長

2 議題

（1）「京都市環境基本計画（2016～2025）」の点検・評価結果について

・事務局から，資料 1 に基づき説明

（小幡部会長）客観的指標のうち，「大気汚染に係る市保全基準達成状況」，「水質汚濁に係る市保全基準達成状況」についても，年度目標に対する実績値の達成率が 100% の場合に星 5 つ，80% 以上 100% 未満の場合に星 4 つ…と，他の指標と同様の評価にすることで良い。

<「長期的目標 1」について>

（大久保委員）公共交通関連の記載に関して，図 4.7 の主観的指標「徒歩や自転車，公共交通機関優先の取組が年々進んでいると感じるか」は「どちらとも言えない」が多いが，図 4.8 「日頃から，徒歩や自転車，公共交通機関を優先した移動手段を取っていますか」は「取り組んでいる」と回答した人が多い。どうしてそうなるのか，原因分析が必要。

また，図 4.6 「地球温暖化対策は市民の生活の質を向上させるか」については，「そう感じる」に「まあそう感じる」を合わせると半数近くになるが，「そう感じる」の回答者は 7 % しかない。温暖化対策の必要性が伝わっていないという見方もできる。

（事務局）まだまだ市民への啓発が足りていないので，一層取組を進めないといけないと思っている。半数を多いとするのか，少ないとするのかは御意見をいただきたい。

（小幡部会長）「どちらとも言えない」，「あまりそう感じない」は，同じような感覚で回答しているようにも思える。

（事務局）「どちらとも言えない」を良いとするのか，悪いとするのか，どのように評価すれば良いか。

（小幡部会長）京都議定書 20 年を大々的に宣伝している割にはそう感じる人は，少ない気がするが，「どちらとも言えない」という人をどのように捉えるのかは，表現の問題である。今は良い方向に捉えて分析しているが，どのように書いたら良いか。

(大久保委員) 近年、温暖化対策や省エネ対策は、必要ではあるが、辛い、面倒だという雰囲気もある。国際的に見ると、地球温暖化対策に取り組むことは、新しいライフスタイルが生まれ、経済成長にもつながることから、産業界も動いている。温暖化対策は、生活の質の向上につながるというメッセージを伝えていく必要があるのではないか。

(窪田委員) 日本でも、温暖化対策に関して、積極的な企業はあるが、運輸部門、業務部門のCO₂排出量を削減していかなければならない中、実態としては進んでいないと感じる。私たちも、CO₂排出量を削減することで経営の質を高めていこうと、継続的に取り組んでいる。しかし、温暖化対策を「やらなければならない」として取り組んでいる企業と、企業経営にプラスになるとして取り組んでいる企業との意識の差がまだまだあるのではないかと。市民の方でも、取り組まなければならないのは分かっているが、生活の質が高まるという意識は低いのではないかと。「地球温暖化対策に取り組むことによって、市民の皆様の生活の質を向上させると思いますか」のこの結果は、これで良しと評価するのはどうかと思う。

また、主観的指標の図 4.7「徒歩や自転車、公共交通機関優先の取組が年々進んでいると感じるか」は、「どちらとも言えない」、「あまりそう感じない」の回答が非常に多いが、図 4.8「日頃から、徒歩や自転車、公共交通機関を優先した移動手段を取っていますか」では、「取り組んでいる」の回答が多く、この差は大きいと思う。観光客等の増加の実態を加味すると、その影響が出ているのかもしれない。図 4.12「公共交通機関利用者数」のグラフは、利用者数の絶対数で表しているが、交通網の分担率等でより公共交通へのシフトが進んでいることが示せるのであれば、それを使った方が良いのではないかと。

(小幡部会長) 分担率とは、通勤や通学で使用している交通手段を表したものか。

(窪田委員) パーソントリップの中で、どういう交通機関を使っているかという分担率のことである。都市計画の分野で調査していると思う。平成 23 年から 27 年は観光客が増えており、観光客も公共交通機関を使うように誘導を図っている。

(小幡部会長) 外国人観光客が大きいスーツケースを持っていて、市バスの乗車に混雑が生じていること等、新聞で目にしたことがある。

(大久保委員) 利用者は増えているが、観光客が増えているからということか。観光客は公共交通機関も使っているが、全員ではない。なら、もっと公共交通利用者が増えていかなければならない。

(小幡部会長) 交通網の機関分担率等を入れ、徒歩による移動や公共交通の利用がどうなっているかが分かるものを、入れた方が良いのではないかと。

(事務局) より分かりやすい評価となるよう、検討する。

(小山委員) 図 4.8「日頃から、徒歩や自転車、公共交通機関を優先した移動手段を取っていますか」について、「どちらとも言えない」という選択肢はないのか、あったが選んだ人がいないのか。

(事務局) 社会環境等に対して実感度を問うものに関しては「どちらとも言えない」を入れて 5 択で取っている。一方、自分自身の生活行動を問うものは、やっているか、やっていないか、自分で判断できるものであるため、「どちらとも言えない」を入れず、4 択としている。5 択のものは「どちらとも言えない」が入った分、評価が難しくなっている。

(小山委員) 図 4.7「徒歩や自転車、公共交通機関優先の取組が年々進んでいると感じるか」の結果は、バスや地下鉄を使いたいと思っているが、制度やインフラが追いついていないという解釈かもしれない。そうであれば、歩くまちの取組など、市民の欲求を満たすような制度やインフラを推進していくということになるが、解釈が正しいのかは難しい。徒歩や自転車と、バスや地下鉄が使いやすいかどうかは、切り分けて聞いた方が良い。

(小幡部会長) 図 4.7「徒歩や自転車、公共交通機関優先の取組が年々進んでいると感じるか」、図 4.8「日頃から、徒歩や自転車、公共交通機関を優先した移動手段を取っていますか」を見ると、公共交通の政策が遅れているという評価もできる。また、図 4.6「地球温暖化対策に取り組むことによって、市民の皆様の生活の質を向上させると感じますか」の結果から、温暖化対策がどう生活に関わるかの理解が追いついていないようにも感じる。インターネット調査なので誤差や地域差もある。

(小山委員) 豪雨や熱中症など地球温暖化の影響と思われる危機が迫りつつあるのは感じるが、地球温暖化対策に取り組んでもすぐに効果が見えてこないということかもしれない。実感できるまでのタイムラグがあるかもしれない。

(小幡部会長) ここの意見だけでも、これだけ解釈が違う。

(大久保委員) 今回のインターネット調査は、サンプル数を 1,000 取っており、定量的分析では、一般的には実態と比例していると考えられる。また、最初、インターネット調査では高齢者の回答は取れないのではないかという話もあったが、意外に取れていると一般的には言われている。

(事務局) アンケート調査は、住民基本台帳の人口比率に応じた形で取っている。3 ページに年代ごとの回答数を書いている。年齢は幅広く、バランス良く取っており、若者だけの意見が反映されているわけではない。

(大久保委員) インターネットにアクセスできる層ということでもある。生活スタイルが違うということはある。図 4.6「地球温暖化対策に取り組むことによって、市民の皆様の生活の質を向上させると感じますか」は、半数以上が「そう感じない」としており、評価についてより検討する必要がある。

(小幡部会長) この質問項目の評価結果については、「拮抗している」などと表現してはどうか。

<「長期的目標 2」について>

(大久保委員) 大気汚染に係る市保全基準については、二酸化窒素と PM2.5 が達成したことで、後は光化学オキシダントだけが未達成となっているが、ここは、国が基準自体の見直しをかけているため、将来的に変わるかもしれない。一方、水質汚濁に係る市保全基準達成状況については、どの項目が達成していないのかが分からない。

(事務局) 達成していないのは pH と大腸菌群数である。pH は自然現象による影響が大きい。

(大久保委員) 市保全基準は、市の独自のものと記載してあったが、国の環境基準から上乗せしているのか。

(事務局) 水質汚濁に係る市保全基準については、国と同じである。大気汚染に係る市保全基準については、物質によって異なり、例えば、二酸化硫黄や二酸化窒素は厳しい基準を設けている。

(小幡部会長) 図 4.15「空気や河川の水がきれいに保たれていると感じるか」については、「そう感じる」と「まあそう感じる」の計が41.4%であり、評価は「やや高い」と書いてあるが、「どちらともいえない」が結構ある。先程のところと同じであるが、「どちらとも言えない」をどう評価するか決めてもらった方が良い。

(大久保委員) 図 4.6「なぜきれいに保たれていないと感じるか」で、一番多かったのが「河川における水のにごり、匂い、ごみの散乱」とのことであるが、にごりや匂いと、ごみでは、原因や対策が異なる。どちらの要因でこの選択肢を選んだ人が多かったのかが分からない。日本の河川はクリーンアップ作戦等で、清掃の取組を行ってきたはずだが、最近では意外と河川にごみがある。

(事務局) 今後のアンケートでは、分けて聞くことを検討する。にごりと匂いは一緒に良いか。

(大久保委員) それはまだ良い。ごみは、景観も変わってくる。ごみが流れて水質が悪くなることもあるが、市民はそう思っているのか。水質に関わるものとそうでないものは、分けた方が良いと思う。

(小幡部会長) 図 4.22「自然環境と調和した文化や暮らしとして、どのようなものが広がっていると感じるか」について、「打ち水」、「しまつのこころ」、「門掃き」の回答はかなり少ないが、総評において、これらを継承していくとしている。「食文化」や「自然が身近にある暮らし」など、高い項目をもっと広げていくとすることもできる。図4.21「自然環境と調和した文化や暮らしが広がっていると感じるか」は、広まっていないものを広めていかなければならないとするのか、広まっているものでも廃れてきているところがあるので、もっと広めていかなければならないとするのか。

(小山委員) 図 4.22「自然環境と調和した文化や暮らしとして、どのようなものが広がっていると感じるか」の問いは、答える人によって解釈が異なるのではと思う。私がアンケートに答える側であれば、「打ち水」は実践しているから、「自然環境と調和した文化や暮らし」が広がっていると回答するのか、それとも「打ち水」が「自然環境と調和した文化や暮らし」に該当するかを問われているのか、判断に迷う。どちらの意図で聞いているのか前提条件が分かりにくい。どの選択肢も自然環境と調和しているのは自明であり、それが実践されているかどうかを聞くものなのか。

(大久保委員) 「打ち水」であれば分かるが、「伝統文化」という選択肢もあるので、何でもざっくり含まれる。これを回答しておけば良いとした人もいるかもしれない。

(事務局) 暮らしの例として、「門掃き」や「打ち水」が日々の生活の中にあるということで、項目として入れた。アンケート項目については、改めて検討する。

(小幡部会長) 「自然環境と調和とした文化や暮らし」で、「和食や京野菜」が出てきているのが違和感を感じる。文化と自然環境をどう絡めるか。

(小山委員) 調和しているのか、広がっているのか。どちらを問われているのか分からない。

(事務局) 環境基本計画策定の際に、新たな試みとして「文化」を入れた。このアンケートは、

どのような「自然と調和した文化」が広がっていると感じるかという聞き方をしており、打ち水や門掃きを実践しているかで回答が低くなっている可能性がある。アンケートは、先入観を持たせないよう、質問に関する説明等を記載しないようにしていたが、必要に応じ、説明を入れることも検討する。

(大久保委員) 同じ質問の選択肢の「自然が身近にある暮らし」と「自然豊かな都市景観」について、京都を都市景観と捉えるのか、文化的な景観だと捉えるのか。都市景観だと、京都駅が調和しているかどうかというイメージを持つかもしれない。「打ち水」と「門掃き」は一緒の選択肢にまとめても良いのではないか。

(小幡部会長) 豊かな都市景観と門掃きでは、選択肢の項目としてレベルが全然違うと感じる。(事務局) 皆様の御意見を踏まえて、見直すものは見直していく。

<「長期的目標3」について>

(大久保委員) 26 ページの総評は記載が細かく、主観的指標や客観的指標の説明も出てこない。他の基本施策の記載と合わせた方がいい。

(事務局) 基本施策1と2は、環境指標が同じであり、指標について触れると同じ内容を書くことになるため、進捗状況として、廃棄物の処理とエネルギーの有効活用の状況のみ記載している。

(大久保委員) 基本施策2の方は、バイオマス発電やごみのエネルギー回収の話が多いが、発電量は載せるのか。載せるならば、総評の方もそれに触れるべきだと思う。

(事務局) 検討する。

<「長期的目標4」について>

(大久保委員) 図4.30から4.32は、「どちらとも言えない」の割合が同じように半数近いが、総評では、図4.30「学校や社会、地域で環境学習や環境保全活動の機会が増えていると感じるか」は実感度が「高い」傾向、図4.31「環境教育・学習や環境保全活動に関する情報が十分に発信されていると思いますか」は「そう思わない」という人が多い、図4.34「環境に配慮したライフスタイルが広がっていると感じるか」は「どちらともいえない」との評価であると記載されている。図4.30の「そう感じる計」が3割というのは、実感度として高いと言えるのか。

(小幡部会長) 半数が「どちらとも言えない」なので、どう答えて良いのか迷っている人がいるのかと感じる。

(大久保委員) 図4.31の情報発信に関しても、環境保全活動のプログラム参加者数は増えているが、その機会があまりないということなのか。関心のない人が多いという可能性が極めて高い。

(小山委員) 図4.32「環境に配慮したライフスタイル」とは、具体的には何か。人によってイメージが違うのでは。これまでの設問にあったようなマイバッグや自転車、バスを使う生

活のことなのか、もっと文明的なことなのか。「環境に配慮したライフスタイルとは」の説明があれば、答える側は、自分に当てはまるか、周りに増えているような気がするかで答えられる。

本質的な解決策になるかは分からないが、偶数の選択肢にすれば、良いか悪かどちらかに割れる。4段階か6段階にすれば、どっちに寄っているのかは分かる。

(板倉委員) インターネットによる調査なので、こんなものだと思う。いい加減な直感の感じが「どちらともいえない」に出ていると思う。パッと考えて、エコバッグを持っていたらエコライフが広がっていると感じるといったような感覚だと思う。

(小幡部会長) 「環境に配慮した」について議論をすると、それだけで1時間や2時間掛かる。(事務局) 次回のアンケートでは、「環境に配慮したライフスタイル」とはどういうものかについて、イメージできるよう工夫する。ただ、年齢によってライフスタイルが変わってくるので難しい。これに当てはまらないから配慮していないとなってしまうと、偏った回答になってしまう。

(大久保委員) 同じ人でも、「食べ残しはしないけど、車に乗っている」というケースもある。

(小幡部会長) 全体で考えないといけない。だから、「どちらとも言えない」という回答になってしまう。

<全体について>

(板倉委員) 蛇足だが、長期的目標4の基本施策(4)の進捗状況において、マレーシアでの取組が書いてあるが、他にもあると思う。結構、小学校単位で交流している。

(窪田委員) 32ページの「KES 認証保有件数」の実績は89%であり、評価としては悪くないが、KESの認証自体は本来増やしていくべきところが、絶対数として減っている。それで良しとするのは違う。保有件数が減少した理由について、より踏み込むと、KES自体、取組の成果が出にくいという性質を持っている。仕組みを導入した初年度は良いが、2年、3年経つと成果が小さくなる。それを継続するのは、企業としてもマンパワーが足りなくなる。必ずしも事業所の統廃合だけが原因だとは思わない。ISOの方へ前向きに取り組んでいる企業もある。減少した理由については、年度目標値をほぼ達成しているとするより、マイナス要因も評価していただきたい。

(小幡部会長) 認証は5～6年すると効果がなく、マンパワーが掛かる。事業者の統廃合は、関係ないところもあるのではないかな。

(事務局) KES 認証保有件数の減少について、倒産や統廃合は大きな理由の1つではある。その他、更新をされない理由として、マンパワーやコストの問題がある。統廃合やコストの問題で更新しない企業よりは少ないが、やはり発展的にISOを取得してKESを廃止するケースもある。

(小幡部会長) 32ページの総評だが、エコ学区はだいぶ推進しているので、6行目の「このほかにも」は取ったらどうか。

(大久保委員) KESはこのまま減ると、目標年には目標値を大きく下回ることになる。もしこ

の傾向が来年度も続くのであれば、最終的な評価はどうなるのか。

(窪田委員) 平成 27, 28 年度の数字だけで判断するのはどうかと思う。感覚でしかないが、企業サイドで意識が高まっているとは言い切れない。新規をどう増やすのか、インセンティブ等、そこを考えていかないといけないと思っている。

(小幡部会長) KES は京都だけでなく、全国版になっている。全国ベースで見ていく必要がある。

(大久保委員) 他都市でも、新しいところにやってもらうのは良いが、継続的にやるインセンティブがないことから、この手の指標については、増やしていく指標として不適切として、指標から削るところもある。

(窪田委員) 24 ページの図 4.28 「傷んだり壊れたものを捨てずに修理して使うことや、フリーマーケットの利用など、リユースが暮らしに広がっていると感じますか」について、リユースの取組は、若者の間だけでなく、年配や主婦層にもネットで広がっており、市場規模が非常に大きい。これを含めると、もっとプラスの評価が出るのではないか。質問の中で、リユースの例として「フリーマーケット」しか挙げていないので、回答者がイメージできていないのではないか。

(大久保委員) 今年環境白書の分析では、ネット上のリユースの仕組みが非常に効いているとしている。

(小山委員) フリーマーケットの他に、ネットオークション等という表記が入っていれば、もっと増えていたかもしれない。

(事務局) 御意見を踏まえ、アンケートの設問内容を検討する。

(2) その他

(事務局) 年次報告書の名称については、継続して同じものを出していると分かってもらえるよう、今後もこれまでと同様に「環境レポート」としたいと考えている。

(小幡部会長) 「条例に基づく年次報告書である」ということをどこかに記載していれば、「環境レポート」で良いと思う。

・事務局から、資料2に基づき説明

(小幡部会長) 主観的指標の補助項目について、特に気になるところを意見願う。

(事務局) 目標2①の選択肢「工場や自動車などのからの排気ガス」については、対策が異なるため、工場と自動車で選択肢を分けた方が良いか。

(大久保委員) 排気ガスはそうだと思う。工場や家庭からの排水影響は、市民感覚からすると川と一緒に流れているものなので、それは一緒に良いと思う。

(小幡部会長) 目標2③の選択肢については、「しまつのこころ」と「打ち水」、「門掃き」はまとめて一つにすることをお願いしたい。

(板倉委員) こんなものだと思う。細かく分けると、聞かれる方も分からなくなる。

- (小幡部会長) 目標 2③の選択肢の「和食や京野菜などの食文化」が引っかかる。環境保全に関するアンケートなので、「和食」をメインとするのではなく、地産地消の野菜等の方が良い。
- (事務局) 目標 2③の選択肢の「自然豊かな都市景観」の表記だが、「都市景観」という言葉ではなく、「自然豊かな景観」の方が良いか。
- (大久保委員) 元々の基本施策に「都市景観」と書いてある。しかし、それには色々と修飾語が付いている。これだけだとイメージが分からない。
- (小山委員) 1つ目の「自然豊かな都市景観」と2つ目の「自然が身近にある暮らし」の違いは何か。
- (大久保委員) 「自然豊かな都市景観」には、文化景観も入っている。自然と文化が調和した景観で、景観、町並みというところか。
- (事務局) 「町並み」や「景観」と具体的に書いた方が、想定がしやすいか。
- (小幡部会長) 京都市も地域が色々ある。都心部のイメージもあるかもしれないが、里山もあるので、今回のアンケートでは回答者の地域が分かるようにした方が良いと思う。
- (事務局) 「町家、木造建築などの住文化」の選択肢も「町並み」とする方が分かりやすいか。
- (大久保委員) 京町家や木造建築は戸建てのイメージ。景観、町並みだと連続性をイメージする。しかし、回答者はそのようなイメージで、アンケートに答えていないのではないかな。具体例をいくつか出して、どれかにヒットするようにするのであれば、それでもありだと思う。
- (小山委員) 1つ目の「自然豊かな都市景観」は、三山の山に囲まれた京都のまちのイメージ。2つ目の「自然が身近にある暮らし」は、自分が歩いている道の街路樹や公園のイメージか。それを具体的に書いた方が良いかもしれない。
- (事務局) 「自然環境と調和した祭事や伝統文化」の選択肢について、「祭事」と「伝統文化」とで、選択肢を分けた方が良いか。伝統文化には、茶道、華道等があり、祭事には、祇園祭等がある。伝統文化と祭事をセットで聞くと、どちらのイメージで答えているのかの区別が難しい。
- (小幡部会長) これはこれで良いのではないかな。自然と調和しているかを聞いている。祭事であれ文化であれ、社会的なものとながっているかどうかということで良いと思う。
- (大久保委員) 伝統文化に茶道等をイメージしているのであれば、カッコ書きで入れれば良いのではないかな。そうでないと、打ち水なども伝統文化だと思われる。
- (事務局) 例示を入れて具体的にイメージできるようにする。目標 4①の「あなたはどのような環境問題や環境保全の行動に興味がありますか」の選択肢については、細かいようであれば、選択肢の統一、削除を検討したいと考えているがいかがか。
- (大久保委員) 「環境問題」と「どういう行動に興味があるか」を一緒に聞いているから、これだけ多くの選択肢となっているのかもしれない。
- (小幡部会長) 「環境問題」と「行動」を分けるということか。
- (大久保委員) 一案である。興味のある環境問題を聞いて、その結果を何に活用するのか。
- (事務局) 関心のある項目での講座やセミナー等の開催につなげていくことを考えている。し

かし、項目が多くなり、突出した回答が出ないので、どこに関心があるかを導き出せていない。

(小幡部会長) ここの長期的目標は「環境保全を総合的に推進するためのひと・しくみづくり」なので、興味がある環境問題で、どのような仕組みやネットワークを作ったら良いかを聞くなど、テーマで聞かない方が良いのではないか。自転車に乗るネットワークを作るとか、自然観察会や講座に行く、環境家計簿をつける、広報を読む等の仕組みを選択肢にして、どのようなことをしたら、行動に移したいと思うのかを聞いてみてはどうか。

本日の議題については以上で終了する。

3 閉会